

わたしたちの町

人口(男)……4763人
(女)……5039人
合計……9802人
1月中の転入……20人
転出……17人
世帯数……2223世帯
(1月31日住民登録人口調)

成人式

責任と希望を胸に!!

社会人として清潔な出発

昭和五十二年の新春を迎えた一月六日、恒例の合川町の成人式が、合川町公民館を会場に百五十名の新成人が出席して行なわれました。

会場には正月に帰省し、ふるさと合川で成人式を迎えようという人たちが、町で働く若人たちが出席、久しぶりの再会ということもあって、顔を見合せては思わず歓声をあげるなど、

者を代表して桜井晶子さん(下杉)に畠山町長から成人証書と記念品が授与され、

畠山町長が「このきびしい世相の中で、社会人となつた若いみなさんが、これ

そして県教育庁北教育事務所主任社教主事の佐藤長俊氏が「新成人に期待する」と題して同氏の体験をまじえてのユニークな記念講演に新成人のみなさんも感銘されておりました。



未来に向って決意も新たに 呼名をうける新成人のみなさん

若い息吹きを満喫させ、昭和四十六年に呼びかけ実施されて以来、すっかり定着した。男子は背広、女子はスーツの軽装は清々として、そしてなごやかな雰囲気の中にも一段と社会人としての自覚を感じさせました。

式典はまず全員で町民歌を斉唱。つづいて、一人一人が紹介されたあと新成人

真撮影のあと河田社教主事の指導で歌やゲームの「新成人のつどい」で楽しい一日を過ごしました。

十六人も

晴れの仲間入り

大野台の里

総合福祉施設「大野台の里」の成人式は、成人の日一月十五日行われ、十六人おめでと……

式典は午前十時から二百八十七人の仲間も出席して行われました。

まず町民歌を全員で斉唱つづいて畠山町長が新成人になった男子八人、女子八人の十六人に成人証書と記念品を授与、木村園長からもお祝いの記念品が贈られました。

そして畠山町長から「新成人になったみなさんは、これから、父母や職員に甘えることなく、立派な大人として健康で頑張つてほしい」とお祝いの言葉を述べました。

これに対し新成人を代表して菅原道行さんが「今日から大人の仲間入りが出来て本当にうれしい。これから先生の話をよく聞き、教えるを守り元気で頑張ります」と決意を表明しました。



この絵はがきは合川を郷土にもつ人たちのきびなを深め、さらに合川町を広くPRしようとするために作られました。

なお、ご希望の方は一組二〇〇円で頒布致しますので大野台ハイランドハウス、または役場企画課までお問い合わせ下さい。

町ではこのほど観光や施設の紹介を兼ねた「絵はがき」四千部を作成、町内全戸に配布しました。

絵はがきは八枚一組で、「猿倉人形」「広域合川ナイター球場」「大野台とハイランドハウス」「大野台の里」「合川万灯火」「ほ場整備とカントリーエレベーター」「町行造林」「県立大野台高等農業学園」からなっており、さらに、「羽根山沢国有林の秋田杉」を表紙として自然に恵まれた伸びゆく合川を象徴しております。

再び「火事の町」に?

真剣に取組もう 火災予防に

合川町では過去昭和五十二年九月六日まで八百三十日間無火災という輝かしい記録を打ち樹てきたが、かつて「火事の町」の汚名返上をなしとげました。

しかしこの記録が中断以後現在までボヤも含めて十件の火災が発生しており、再びその傾向にあることな

町と消防団では全町民と一丸となつての予防対策と火災予防意識の向上に努めるべく、徹底した運動を行なうことになりました。

駅前を機動

分団に独立

合川町消防団は一月から消防自動車の出動を担当す

二分団(東地区)の第四班



火災の撲滅を期して 出初め式での行進

(駅前)として任務に当たっておりましたがこれを機動分団に独立させ団に一台ある消防自動車を担当し、分署の消防自動車とともに万一の火災に備えるものです。

なお、新設の機動分団は団員が十四人ですが、これにともなう、幹部の異動は次のとおりです。

町 辞 令

(異動・出向・任用)

▼主事 安部綱江(教・委) 福祉課へ

▼主事補 沢藤茂子(総務課) 教育委員会へ

(異動)

▼主事補 松橋良子(企画課) 総務課へ

▼主事補 成田幸子(福祉課) 企画課へ

(杜協職員・退職)

▼家庭奉仕員 永井フサ(杜協職員・任用)

▼家庭奉仕員 宮野梧子

火の用心は

家庭と地域から

年末年始の雪は久方振りの大雪となった。その後陳情のため上京して、雪のないところを数日はしりまわったが、雪靴は足がはてつて苦しかった。日本の国のなかでこんなにも違うのかと、いつも

町長日記から

雪を漕いでみると、親や祖父は子供を叱っているのではないかと思つたり、今の子供はヤブコギはやらないのかなと思つたりしていた。

雪を漕いでみると、親や祖父は子供を叱っているのではないかと思つたり、今の子供はヤブコギはやらないのかなと思つたりしていた。

語るにいいお

出席者

成田 誠治(大内沢) 農 業 平川 富子(李 岱) 主 婦
成田 歌子(李 岱) 農 協 職 員 田 中 京子(駅 前) 美 容 師
藤 島 雄 悦(木 戸 石) 教 員 伊 勢 ユリ(八 幡 岱) 主 婦
関 弘(上 杉) 大 工 玲 子(弥 栄) 酪 農
桜 田 楨 子(東 根 田) 主 婦 町 長 畠 山 義 郎
長 田 健 一(駅 前) 水 道 業 司 会 佐 藤 章
正 田 俊 男(桃 栄) 農 業 (町 公 民 館 長)

楽しみは「ウマツコ」金 勇敢にのびのびと 成田(誠)

司会 新年あけましておめでとございます。

今年はい年でありまして、30代の方にお集り願ひ、それぞれの生活や町への意見、要望を語っていただき、新春にふさわしい座談会にしたいと思ひます。

まず正月を迎え、みなさんのうちの子供さんは何を一番喜んでゐるのですか。小学校五年生から保育園、それにまだ小さいお子さんと、だいたい同じ年代の子供さんをお持ちのよう

のが。金さんからそれではまず、口火を切ってもらいまし

う。金 私のところはウマツコ(お年玉)だと思ひます。

桜田 餅を食べることも楽しみのようです。そのためいろいろな餅をつくります。

関 映画を観ることのよう

でした。それと話は違ひますが、出稼ぎすることを大変さみしがります。

長田 やはり映画やスキーで、普段遊んでやれないので、一緒にスケールの大きい遊びをすることです。

成田(歌) 実家へ行ってお年玉をもらうことや買物することのようですね。



町長 正月に「うまっこ」に乗るといふことは小さい

時程楽しみのようです。今は日常お小遣いなどお金を貰う機会がありますが、私達の子供時代は金々なかつたので、何んとも言えない喜びと楽しみがありました

ね。それから調べてみましたらみなさんは兄弟姉妹が同一家庭におられない方だけ

のようで、大変めずらしい感じがします。

みなさんの年代は、ちょうど家庭のサイフを渡される直前の家庭であり、その頃はまた子供にとっても人生が一番動く時で、体で体験させて、教える重要な時期だと思ひます。

司会 「ウマツコ」に乗るといふことの意味について、私もある人から伺ったんですが、昔、農家で馬に乗って遊びに行けるということ



はかなりよい暮らしであつて、農家で馬に乗って、親戚に遊びに行くとか店に行く、そのためにお金を少しもら

つて行けるということに実によいことだし、正月やお盆でないとなかなか出来な

いことであつたようです。いろいろな正月の過しかたについてお話を伺ひまし

たが、平川さんはこちらのお正月を初めて迎えたわけ

ですが、何んか感じてゐる

ことがあります。

平川 子供達には寒さが一番こたえるようです。でも

スキーに乗れることが一番楽しいようです。生活につ

いてはこちらの方がのびのびしてゐます。

藤島 うちの子供を見てま

すと、どうも学校で遊ばない、そういう遊びは家に帰

つて来て肥料袋を利用して遊んだり、子供同志で集つてやるのが子供の世界では楽しいようです。

司会 こんどは子供さんに期待をされてゐることをお伺ひいたします。

成田(誠) 私達の育つた時代のような、昔のイメージがなくなつて行くので、子供達の想像や発想でもつて遊べるような社会体制をつくること、子供時代はやっぱり肥料袋のようなもので、勇敢な遊びをするこ



次代を築く子供にまず体で体験を(収穫の喜び 合中餅つき大会)

とです。クツや着物をよこ

にすることが何よりの楽しみのようで、いろいろなところに出かけました。

町長 それは、スキーの大選手になる素質があります

ね。好きなことは徹底的にやらせることです。いまは

学校中心のスポーツに限界がありますから、肥料袋な

どで遊ぶという、そういう単純な遊びを自由にやらせ

る、汚す、切らすといふこと、褒めという気持ちになる

べきです。

スポーツを通じて丈夫な心身を：早朝マラソン大会

十二、十三年頃前までや

つていたズボンに端ぎたすことなんかもこれから流行させなければならぬように思ひます。汚さないで遊べといふことから学行に行

一家のしきたりや 習わしは大切に

情緒の安定と友愛

そこには、一つの子供のしつけを考えて私はやつて

おります。

町長 私もそうですが、お正月やお盆に必ずお膳に

付けものだけは変らない

てしようべきではないと考へます。自分が生れた家

だといふ心の安心感を持たせるといふ意味からも、こ

ういうしきたりや習わしは大切にしたいものです。

藤島 私の家では、お盆と正月は必ずお膳で食べることにしています。



それがあれば子供の情緒が

ちらばつてしまふことにな

りますから、変えることは

うまくないことですね。

成田(誠) それと必ず

家族みんな揃つて神様を

祈つてからごちそうになる

ことなどもそうです。

長田 家や仕事など生活に

あつたものも拝むとか。

町長 最近は自動車にもお

そなえを上げて拝む人も多

くなりましたね。

町長 これらのことは情緒の安定、子供はあんまり気にしてないですが、大人になつて死ぬまで心の安定したものといふか、自分の生れたところの仕来りのようなもの、それに対する慣れ、安心感、そういうようなものがまた一番大事に思ひますので、自分達が子供達の時代にやつてきた一部であつても習慣づけていくことが大切なように感じます。

子供のことですから、体力の増強と情緒の安定の二つについて特に考へて行つてもらひたい。

司会 新年を迎えて是非これだけはやつてもらひたいと考へたことがありましたか。

桜田 健康づくりが必要と思つております。

伊勢 日頃話をする機会が少ないので、お正月はできるだけおとさんを囲んで、子供達と何んでもよいので話し合ひすることです。

金 やはり身体を丈夫にし



代30 新春紙上座談会

二面より

しよに旅行する計画のよう
です。
桜田 私の場合は、秋田市の神社に主人と二人で行って、いっしょに祓つてもらいました。
町長 だんなさんといっしょに祓つてもらったということは家庭的に大変良いことですね。
ある意味では合同という仕組について問題があると思ふことは、本来は社会的なものよりも、家族的な意味があると考えます。例えば、嫁が台所まわりを舅からまかされるなどといったことも、三十三になった機会であることなど、今でもそんな年代で家の内が変っているものではないでしょうか。

いまの社会は何んでもまとめる合同処理をしてしまふ情のうすいものとなつてしまつた感じがします。家庭的な行事でありながら、大事なところを省略して家から遊離されているように思ふます。
藤島 私は自分の親父が四十二の厄払いをするときに親戚の人達を集めて、ヤマ（こもかぶり）にのつてやったことが印象に残っています。
町長 そうです。たとえば地区位でもよいと思ひますが、
成田（誠） 私のところのように小さい部落ではそういう形で行われることは、よいことだと思います。
金 私も同感です。
町長 ただ全町となると着物の問題や部落の神社の係も出てくるので、むずかしい問題ですね。
司会 平川さんは向うの方では、どんな形でやられておりますか。
平川 私も両親といっしょ

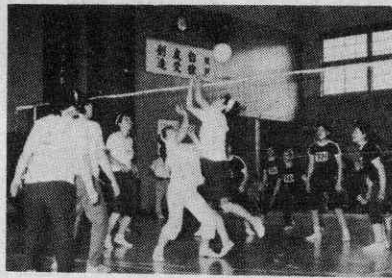


子供の体力づくり

親も参加しよう

司会 次に地域や町づくりについて、日頃皆さんが考えていることやご意見を伺いたいと思います。
成田（歌） 子どもといっしょに体力や健康づくりをやりたいと思つています。町民体育館のような施設を是非ほしいです。
田中 私、地域でグループでスポーツ活動ができればと思ひます。それと最近病気がして、看病されたこともあり、友人の関係について大切にしたと感じています。
桜田 子どものことですが、成長期において個性や特徴を生かしていきけるようなものがほしいと思ひます。それと主婦が働くことが多くなつたこともあり、集会な

私の部落では遊び場がないので、子供が思い切り遊びたくても遊べないでこまつているようです。
町長 町民体育館と農村環境改善センターの建設は一応五十三年度以降の早い機会に建設する予定で検討しております。
健康と体力の増進は地域や家庭から育てよう（家庭バレーボール大会）



いろいろな会合を通して話し合いをしています。次代を担う子どもに、丈夫な体力と情緒の安定した友愛心のある子どもに育てあげたいものです。そのためには遊び場の整備や施設の利用体制づくりも併せて進めていきたいと思ひます。
関 交通安全や防火予防を含めて、狭い部落の道路の整備にも力を入れるべきだと考えています。



地域との連帯を深めよう

藤島 私も車で通勤して感じましたが、特に冬期間の通学について、事故のおきない前に対処してほしいと思ひます。
金 特に私のところは汽車通学ですので、夜遅い時には本当に心配です。



町長 私には仕事をとおして環境整備について、町内ではどうしても下水や排水処理の問題も大きな問題と思ひますが、町の計画はどうなっておりますか。
それと広報無線の聞こえないところもありますので、もっと性能の良いものにするにはできないものでしょうか。



町長 話が別になりませんが、私たちの年代は集まる機会も少いし、何か連帯意識がないように思ひますね。
成田（誠） たしかに年齢や職業などでは連帯感がありますが、地域的には何か離れているというか、受け入れられる体制がないように



いますので困りますね。
それといま町の交通安全協会の方にも提案してありますが、青年部会を設けて、青年が連帯の中から運転者のモラルを確立していきたいと思ひます。また、防火についてですが、狭い道路の拡張を部落にもお願いしておりますので、その後で整備したいと思ひます。最近特に火災が多く発生する傾向にありますので、もう一度、地域を中心に防火に対する意識を広めようというところで、部落にも連絡し、会合があることに呼びかけることにしています。



町長 たしかにそうです。それぞれの果すべき役割と範囲については、すべて町でやるということではなく、それぞれ「ケジメ」とルールをもつていままも勿論やっています。これから、町づくりを進めて行くことからも重要なことに思ひます。

また、広報無線の聞える聞えないの問題もあります。が、チャイムのオルゴールだけは今のものをとり換えて、もっと町民のみなさんの心に和むような音の出るものにしたい方がいいですね。それから、中年層の連帯や仲間づくりはこれから社会を築きあげていく面では大変重要なことです。町で開く学級のなものも一つの考えですが、それよりも仲間づくりは自分達の手でつくるものです。これは自分への要望ということですね。そういうことから、田中さんが言われた病気に改めた友人の親しい心に気がついたことで、大切にしていきたいといわれましたが、この発見は本当にすばらしいと思ひます。



非常に内面的なところもあって、もっとも大事な充実した年代であること強く感じました。どうかこの新しい年、お互いに健康で今日のような気持ちで、意欲的に頑張ってください。

みんなの広場

— 地域活動だより —

おとしよりと 子供のつどい

駅前公民館

と三吉さん」の人形芝居劇に特別出演して、真面目に働くことがどんなに美しいことであることが教えられ、「生涯学習」にふさわしい集いとなりました。



駅前部落委員会では昨年十二月十九日午後一時から、木の香も新しいコミュニティセンターで、部落の公民館主事たちと協力し合っておじいさんやおばあさんと小・中学校の子供たちを招いて、「歌や踊り」の楽しい集いを開きました。集った方は約八十名でしたが、畠山町長と教育委員会事務局局長が出席して、「地域の方々が健康を第一にして、毎日幸せにくらし下さい」と述べられました。又、川井部落と木戸石部落の中学生たちが、「よくばり長者

公民館のつどい

リレー、男女とも

杉山田 雪田チー 沢田ムが優勝

豚汁の大サービス

第三回町民スキー大会は一月十六日(日)根田町民スキー場で開催されました。当日は絶好の大会日和、子ども達は冬休み中、しかも日曜日とあって父兄の応援も多く七百人近くの人々でにぎわいました。大会に先だって行われたスキー場開きには畠山町長

想い出にしたいと語っていました。(写真は中学生たちの熱演する人形劇)

親子でスキーを 楽しむ

東根田親の会

体力増強と親子のふれあいを——と東根田親の会(会長佐藤勇さん)では、去る一月九日地元である町民スキー場で公民館主事の佐藤修介さんも参加し、親子で楽しい一日を過ごしました。

好天に恵まれ、保育園児たちは、スノーボードでどうさんやおかあさんと一緒に雪やばに突っ込んだり、お父さんが迷スキーヤー(転倒)ぶりを発揮するなど子供たちは大笑いするなどなごやかな風景がみられました。

この親の会は昨年八月結成され、公民館広場の整地作業の奉仕など失われつつ

大野台の里を 慰問

川井公民館

このほど川井公民館(主任主事吉田正一郎さん)では、婦人会(会長佐藤通子さん)と共催をして、社会福祉施設「大野台の里」を慰問しました。

はじめに、施設管理者である木村愛生園長から「園生たちは明るく元気よく頑張っています。単なる同情ではなく、みなさんの深いご理解をお願いしたいものです」と話されました。このあと愛生園、ひばりヶ丘ホームなど四つの施設を慰問し、認識をあらたにしました。

「心の純粋な園生たちにふれ、私の心も清められました」とある参加者は話していました。

食生活に 創意と工夫を

上杉若妻学級

健康管理の上で、食生活は一番大切といわれていますが、とく日常生活の中でも食生活はマンネリ、なおざりになり易いということと、食生活に創意と工夫をとり入れようということ

で、貯蔵野菜などを使った料理講習を、上杉若妻学級(代表関誠子さん)では、このほど児童館で行いました。

参加者の中には「ちよっとした創意と工夫でこんな

木村園長から説明を聞く



チビッコ 剣士奮闘

スポーツ少年団

合川町剣友会(高橋正吉会長)と剣道スポーツ少年団の寒げいは、一月十三

日合川中学校体育館で剣友会と三十名の団員が参加して行われました。

十五日は寒げい納めを兼ねた紅白試合が行われ、参加した父兄はチビッコ剣

木戸石チーム 健闘し準優勝

新春社会人バスケットボール大会

新春社会人バスケットボール大会は一月九日(日)合川高校体育館に八チームが参加、熱戦が展開されました。

成績は次のとおりです。優勝 役場チーム 準優勝 木戸石体協 敢闘賞 上杉体協

ありがとう 善意のご寄付

次の方々から、故人の香典返しに代えて尊い浄財の寄付をいただきました。

町の社会福祉協議会の活動費に繰り入れ、有効に役立たせることにいたしました。

紙上を通して厚くお礼申しあげます。

(社会福祉法人、合川町福祉協議会)

○松岡信三(羽根山)

父・米治さんの香典返しにかえて一万五千元

○藤田勝義(八幡谷)

祖母・シエさんの香典返しにかえて一万五千元

○西村忠寿(鎌沢)

母・広子さんの香典返しにかえて二万円

○加藤寛造(鎌沢)

父・久米治さんの香典返しにかえて五万円

○関正義(上杉)

祖父・石松さんの香典返し

慶弔だより

自十二月三十一日
至 一月三十一日

○おめでとうご健康をお祈りいたします。
伊藤丈・金作二男(杉山)

“交通災害共済にご家族

そろって加入しましょう”

交通事故は、毎日のように起きており、いつ自分の身にふりかかるかわかりません。

そこでこのような不安を少しでもなくするため助け合いによって交通事故の被害者を救済し、明るい生活を守ろうというのがこの交通災害共済制度であり、子どもからおとしよりまでだれでも加入できます。係ではいまみなさんの加入を受け付けております。

○掛金は一人年三〇〇円です(年度中はいつ加入しても三〇〇円)

○共済期間 昭和五十二年四月一日から翌年三月三十一日までの一年間

○災害共済金 一万円から八十万円まで(程度によって)

○申し込み問い合わせは 役場総務課まで

田、福岡康史・恒夫長男(三男)、工藤三男・久治二男(上杉)、吉田庸子・嘉隆二女(川井)、木村邦仁・忠光二男(李岱)、小笠原さゆり・恵二女(増沢)、工藤誠子・正男長女(上杉)、土濃塚安子・義夫二女(芹沢)、佐藤孝行・武夫長男(川井)、佐藤友宏・充長男(駅前)、永坂洋男・初男長男(道城) ●謹んでごめいふくをお祈り申しあげます。

藤田シエ・勝義祖母(八幡谷)、松岡米治・本人(羽根山)、加藤久米治・本人(鎌沢)、関石松・本人(上杉)、安部重雄・ヨシ長男(駅前)、小笠原ツユ・菊治三男の妻(増沢)、高橋サ・昭市母(美栄)、高谷金治郎・本人(芹沢)、桜田夏子・登母(駅前)、金田典三・本人(新田目)、工藤万六・本人(上杉)